

今日のシライ中

白井の愉快的仲間たち

Vol.27

エノコログサ

エノコログサ？どこかで聞いたような……。ピンポーン！あの、どこにでも生えている俗称「猫じゃらし」のことです。秋になると、この草が目につくようになりますね。今日は、そんななじみ深い雑草、「エノコログサ」の紹介です。白井中のあちらこちらでも、エノコログサを目にするようになりました。

この何の変哲もない雑草、実は、したたかな生き残り戦略をもっている植物です。まず、この雑草は、イネ科の植物なので、その実は硬く、そのままではあまり消化されません。ですから、鳥に食べられても、消化されることなく、他の地域へ運んでもらえる確率が高い利点があります。また、近年、その繁殖力の秘密も、徐々に解明されてきています。校庭の草取りに参加してくれた皆さんなら、気づいているかもしれません。彼らは、抜いても抜いても、素知らぬ顔で、しれっとまた同じように生えているのです。

それには、彼らなりのしたたかな戦略があります。まず、彼らは、その根から、他の植物の生育を阻害する物質を出していることが分かっています。あれ？この繁殖方法、どこかで見たことがある？そうです、あの一見可憐なナガミヒナゲシと一緒に。また、他の植物もそうですが、自分に好適な条件になるまで、発芽せず「休眠」するシステムをエノコログサも持っています。そして、驚いたことに、第一陣が抜かれても、この休眠していた第二陣が、その場にまた芽吹くわけです。なんということでしょう！これでは、抜いても抜いてもまた生えてくるわけです。世界最強の雑草の一つに数えられる驚異の生命力、繁殖力を誇る草です。あれ？この台詞（何と読みますか？ピンポーン！せりふです。）どこかで聞いたような……。そうです。ずっと以前に紹介した「茅」もそうでした。ともにイネ科の植物です。イネ科の植物は、なんとたくましい性質を持っているのでしょうか！

さて、ここからは、おまけです。エノコログサは、俗称「猫じゃらし」ですが、漢字で書くと「狗尾草」です。「狗尾」って何だと思いませんか？実はこれは、「子犬の尾」のことです。昔の人は、あの草の様子を「子犬のしっぽ」とたとえたのです。ちなみに、英語では、「Foxtail grass」「キツネのしっぽ草」というそうです。

さて、先ほど、「イネ科の植物」、と書きましたが、食糧難の時代にあっては、その実を食べることもされていたようです。「アヲ」の原種ということですから、うなずけます。また、先だつての十五夜、「すすき」を飾ってお月見をしたお家もあるのではないのでしょうか？この「すすき」も、「イネ科の植物」です。私たちの身の回りにある「イネ科の植物」、探してみませんか？

